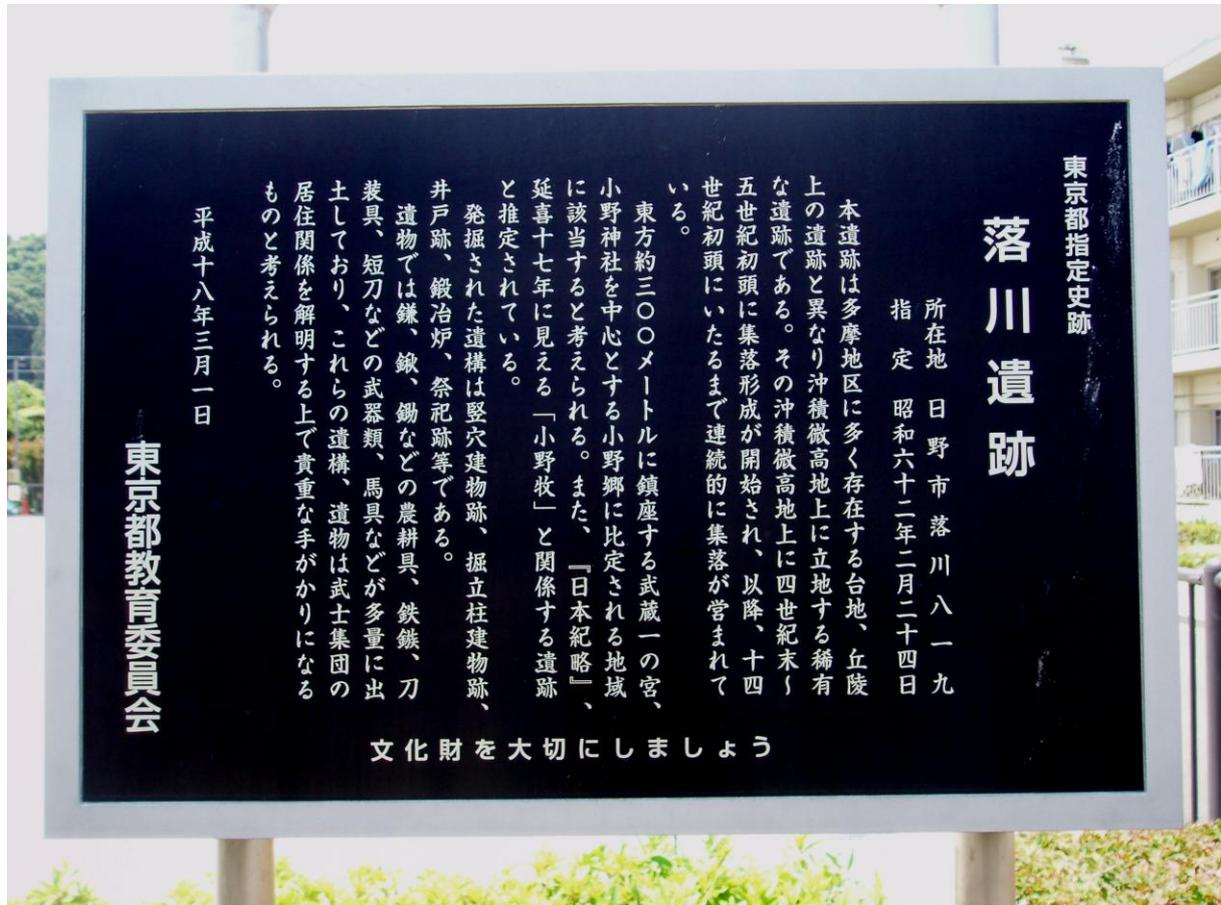


落川遺跡



多摩川と浅川との合流点から約 1km 下流の右岸、多摩川と多摩丘陵に挟まれた沖積地上に形成された遺跡。集落は、古墳時代から平安時代、4 世紀末から 11 世紀末頃まで営まれており、中でも 7 世紀中葉から 10 世紀中葉の遺構が多い。東海地方からもたらされた土器や豊富な鉄器が出土した。また、中国製の青磁や白磁、火熨斗、硯、瓦など各種遺物が出土している。

本遺跡の東方約 300m に武蔵一の宮、小野神社が鎮座し、このあたりが多磨郡 10 郷のひとつ小野郷に該当すると考えられる。また、『日本紀略』延喜 17 年（917 年）の条に見える「小野牧」と関係する遺跡と推定されている。

経済基盤を農業においた、初期の武士集団の様子を解明する上で貴重な遺跡である。
（『日野市の文化財』 1994 年 3 月 31 日発行より）

昭和 62 年 2 月 24 日指定